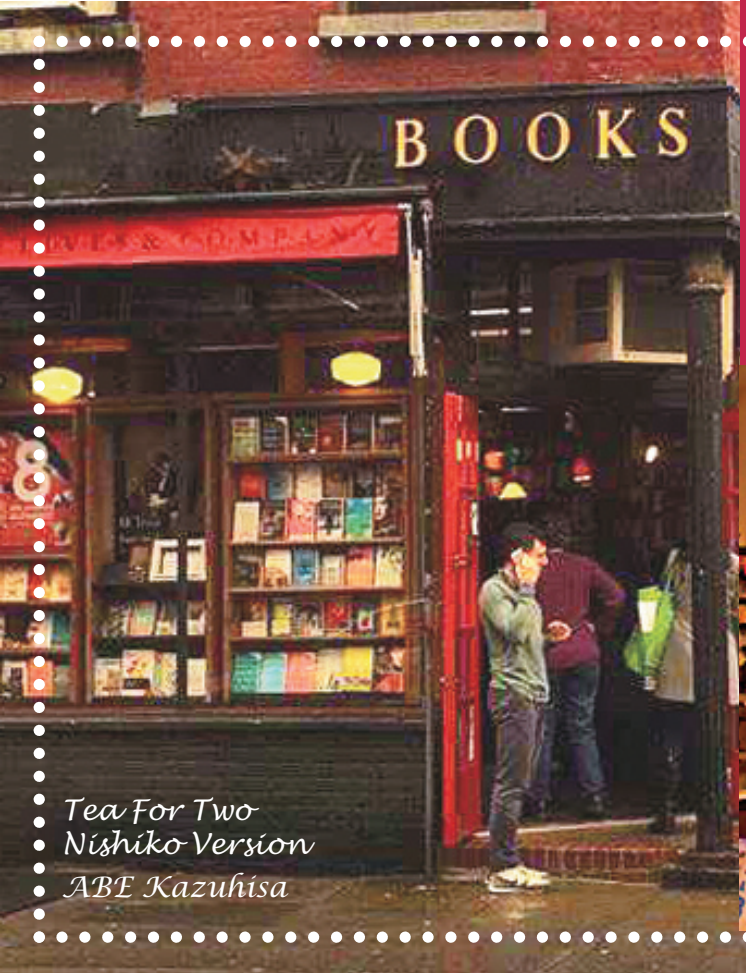

二人のティータイム
西高ヴァージョン

著者／阿部和久

Tea For Two
Nishiko Version
ABE Kazuhisa

二人のティータイム
西高ヴァージョン

阿部和久

はじめに

「あの時代(とき)この本　2人のティータイム」というコラムを山形新聞に連載したことがある。2014年六月に「パリの街角から」の連載を始めるまで、ほぼ三年間、毎月第一日曜日、ミステリーではない翻訳小説を紹介するコラムだった。でも日本の小説でも読まれなくなってきているのに、ミステリーではない外国の小説、しかもそれを紹介する文章となると、どうしても読者は限られてくる。そこで少しでも親しみやすくするため、架空の図書館に勤務する職員の佐藤さんと司書の鈴木さんを設定し、会話体で文章を綴(つづ)ることにした。

連載期間中に山形西高に異動したので、同じ二人が生徒向けの本を紹介する「西高ヴァージョン」を学校の図書館便りの裏面に連載した。各章冒頭の日付は発行日。結果として生徒よりもお母さんたちの方に評判がよかったのは、昔、山形南高校に勤めた時、読書案内「南風」を卒業生に贈った時と同じである。そしてそれはただそれだけのこととして終わるはずだった。そうでなくなったのは、２０１６年春、山形県中学校長会・山形県中学校教育研究会国語部会及び学校図書館部会の編集による『やまがた中学生の読書２』（山形教育用品株式会社）という副読本の中に、この「西高ヴァージョン」から二編採用されるという「奇跡」が起こったからである。目次

を見ると、私の文章の前の著者は宮崎駿、後の著者は柚月裕子という豪華メンバー。長く生きているといろいろなことが起きる。

でも少し焦った。というのは、送られてきたその副読本を手にし、相変わらず脳天気な自分の文章を読んだ後、突然こう思ったからである。万一奇特な中学生から「この二編の他のはないの？」と聞かれた時、窮地に陥った先生を救うために、その全体像を準備しておくのが著者の務めではないか？　もちろん可能性としては限りなくゼロに近いが、ないとは言えない。そこで西高の司書さんにお願いして当時の図書館便りが掲載された冊子をいただき、改めて本文を打ち直し、加筆修正をしてできあがったのが本書である。

当初はこの度アマゾンから出版した電子書籍『二人のティータイム　ブックヴァージョン』の中に本編と一緒に収録しようと考えていた。付録というか、おまけみたいな感じで。しかし「西高ヴァージョン」を打ち直していくうち、こんな私的な文章に人々のお金を出させるわけにはいかないという思いが募(つの)ってきた。そこで私の最初の本『パリの街角から』を出版して下さった書肆犀(しょしさい)の岩井哲(さとし)さんに相談し、その好意を得て、『西高ヴァージョン』の方は書肆犀のホームページから無料でダウンロードできるデジタル・ブックという形を取ることにした。このような出版形式も含め、評価は読者の皆さんに委(ゆだ)ねたい。願いは一人でも多くの人たちが本を手にする機会が増えること、ただそれだけのことである。もちろんこんな遊びをやってみたかった、という気持ちが少し……いやかなり大きな動機であったことは、告白しなければならないけれども。

目　次

はじめに		3
ライオンハート	恩田陸	7
Ｌａｄｙ、ＧＯ	桂望実	12
ぼくと１ルピーの神様	ヴィカス・スワラップ	16
サクリファイス	近藤史恵	20
くちびるに歌を	中田永一	24
喋々喃々	小川糸	28
風が強く吹いている	三浦しをん	32
西の魔女が死んだ	梨木香歩	36

かのこちゃんとマドレーヌ夫人	万城目学	40
少女ポリアンナ	エレナ・ポーター	44
永遠の出口	森絵都	48
しずかな日々	椰月美智子	52
東京プリズン	赤坂真理	56
生きがいについて	神谷美恵子	62
和菓子のアン	坂木司	68
マルセロ・イン・ザ・リアルワールド	フランシスコ・X・ストーク	73
最新脳科学が教える高校生の勉強法	池谷裕二	77
ソーネチカ	リュドミラ・ウリツカヤ	81
終わりに		85

『ライオンハート』　恩田陸　新潮文庫　２０１２・５・２

いつもあなたを見つける度に、ああ、あなたに会えて良かったと思うの。会った瞬間に、世界が金色に弾(はじ)けるような喜びを覚えるのよ……。17世紀のロンドン、19世紀のシェルブール、20世紀のパナマ、フロリダ。時を越え、空間を越え、男と女は何度も出会う。結ばれることはない関係だけど、深く愛し合って……。神のおぼしめしなのか、気紛(まぐ)れなのか。切なくも心暖まる、異色のラブストーリー。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　山形西高の図書委員会から高校生向けの本を推薦してほしいって依頼が来たわ。

佐藤　きゃーっ、私の母校から？　うれしー。

鈴木　山形新聞の「あの時代(とき)この本　2人のティータイム」は翻訳図書から選んでるけど、西高ヴァージョンは何でもありで行くことにしましょうか。

佐藤　了解です。

鈴木　西高のこと、何か聞いてる？

佐藤　後輩の話によると、最近、西高の校長先生が「ライオンハート」って言ってるらしいんで

す。どういう意味で使ってるんでしょう。

鈴木　勇猛で知られたイングランドのリチャード獅子心王（1157〜1199）が「リチャード・ザ・ライオンハート」って呼ばれてたから、「強い心」「挫(くじ)けない心」っていう意味で言ってるんじゃない？

佐藤　ふーん。

鈴木　でも今の校長先生は音楽好きって言うから、ケイト・ブッシュのセカンド・アルバム「ライオンハート」を持ってて、その中の "Oh England My Lionheart" を思い浮かべてる可能性もあるわね。

佐藤　ということは……。

鈴木　恩田陸でしょう。

佐藤　やっぱり！　ケイト・ブッシュの歌に触発されて恩田陸が書いた『**ライオンハート**』ですよね。2005年に本屋大賞を取った『**夜のピクニック**』とどっちも大好きです！

鈴木　アマゾンのカスタマー・レヴュー（顧客による批評）は、今日の時点で47件もあって、評価は相半ばするんだけど、ロマンチックなストーリーが好きな人にはたまらない本ね。

佐藤　これってサイエンス・フィクションなんですか？

鈴木　恩田陸がこの本でオマージュ（讃辞）を捧げているロバート・ネイサンの『**ジェニーの肖像**』は読んだ？　すてきな本よ。時間を越えて出会っては別れていくというお話なんだけど、広くＳＦの「タイムトラベルもの」に属する本ね。でもそんなこと気にしないで純粋

に楽しめばいいわ。

佐藤　『**ライオンハート**』って、例えば萩尾望都の『**ポーの一族**』に通じるような、少女漫画の雰囲気濃厚ですよね。

鈴木　あなたもそう思う？

佐藤　そして五つの章の扉のページには、各章の題名が取られた絵が載っていて、すっごくおしゃれ。

鈴木　文章も時々散文詩っぽくなるところがあって、作者もそのあたり意識してるわね。

佐藤　それに何と言ってもこの本が西高生に向いてると思うのは、私は付箋（せん）を貼り貼り読んだんですけど、読み終わった後に調べたくなるような所がいっぱいあるんですよね。勉強したくなる。

鈴木　例えば？

佐藤　ネタバレになっちゃうから余り言えないんですけど、一角獣のアレゴリー（寓意、置き換えられた象徴）なんか、ストーリーと絶妙にからんでます。

鈴木　『**ライオンハート**』にあるとおり、一角獣つまりユニコーンは昔から「純潔」の象徴として使われて来たのね。

佐藤　「**ライオンとユニコーン**」って、確かマザーグースの唄にもありましたよね。『**鏡の国のアリス**』にも登場するし。

鈴木　昔、パリに行った時、中世美術を展示しているクリュニー美術館で、有名な「貴婦人と一角

角獣」という連作のタペストリー（壁に掛ける織物）を見たことがあるわ。

佐藤　『**機動戦士ガンダム**』の？

鈴木　（ずるっ）

佐藤　鈴木さん知らないんですかぁ？

鈴木　もうすぐ日本にも来るわよ。

佐藤　ほんとに？

鈴木　来年クリュニー美術館が改装するから、その間東京と大阪で展覧会をするんだって。130年間フランス国外に出たことはなかったっていうんだから、すごいじゃない？

佐藤　ふーん、行ってみようかな。

鈴木　六枚とも貴婦人が真ん中にいて、絵に向かって左側にライオン、右側に一角獣のユニコーンが描かれているのよ。

佐藤　ライオンが左側、一角獣が右側。確か二頭で盾を支えている紋章があったような…。

鈴木　ええ、現在のイギリスの国章だわ。

佐藤　そうですよね。その時の一角獣は何を象徴してるんでしょう。

鈴木　ライオンはイングランド。盾はアイルランド。

佐藤　じゃあ一角獣はスコッ…。

鈴木　そうそう。

佐藤　確か『**ハリー・ポッターと賢者の石**』にもユニコーンが出てましたよね。

鈴木　だって対立を結合させるのが「ユニコーン」と「賢者の石」だもの。結びつくのは当然じゃない。
佐藤　対立を結合させるのがユニコーン？
鈴木　……ねえ、こんな風にして、世界の秘密は少しずつ解き明かされていくのよ。

＊中学生の皆さん、『**やまがた中学生の読書２**』に収録された文章とは微妙に違っています。このように同じ題名の文章でも最初に発表した時と本になった時ではしばしば文章が異なることがあります。単行本から文庫本になる時などもけっこう変わります。

『Ｌａｄｙ、ＧＯ』　桂望実　幻冬社　２０１２・６・１８

自分のことを好きになれない派遣社員の南玲奈は、突然の契約打切やエアコンの故障などが重なり、昔の派遣仲間が働く蒲田（かまた）のキャバクラに体験入店する。その後、高校の同級生の姉で、今は六本木の高級キャバクラ№１になった美香にもスカウトされる。かわいくないし、ネクラだし、上手にうそもつけないし、なれるわけないよ、こんな私が、と思っていた玲奈だったのだが……。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　ちょっとあなた！　何持ってるの？
佐藤　桂望実の『Ｌａｄｙ、ＧＯ』ですよ。
鈴木　まさかその本を西高の推薦図書にしようとしてるんじゃないでしょうね？
佐藤　いけませんかぁ？
鈴木　いいいわけないじゃない！
佐藤　どうして？
鈴木　桂望実だったら、ベストセラーになって映画化された『県庁の星』があるでしょ？
157㎝、100㎏の愛くるしい体型から「ごっつぁん」と呼ばれるＯＬが主人公の『ハタラクオ

トメ』だってあるじゃない。

佐藤　だって、私、『Ｌａｄｙ、ＧＯ』を読んだ時、いちばん元気が出たんですもん！

鈴木　それは分かるけど、舞台がねえ……。保護者には内緒にしてもらうしかないわね。

佐藤　鈴木さん「本を読むことはもう一つの人生を生きることだ」って、いつも言ってるじゃないですか。

鈴木　それはそうだけど……。

佐藤　大丈夫。山形県でいちばんキャバクラに勤めそうもない学校はどこですかって聞かれたら、みんな絶対山形西高っていいますよ。

鈴木　（うーむ、ここでうなずいていいのか）

佐藤　確かに、キャバクラとかタイニュー（体験入店）とか、キーワードだけで短絡的に反応されると困るんですけど、ちゃんと最後まで読んでくれた人は、この本がどんなに西高生に読まれるのを待っている本か、分かってくれると思うんです。

鈴木　しょうがないわね。じゃあ、覚悟を決めて行きましょうか。

佐藤　はい。鈴木さんは、この本のどこが好きですか？

鈴木　えーと「気品」のところかしら。

佐藤　昔の仲間が玲奈の店に移ろうとしたときの店長の言葉ですね。

鈴木　「気品っていうのはね、生き方がちゃんとしている人が身につける雰囲気のこと。どういう生き方をしているかって顔や所作（しょさ）に出るもんなんだ。これはね、メイクしても整形しても

くっつけられないもの。内側から滲(にじ)み出てくるものだから。(お友だちは)そういうの、ある子かな？」

佐藤　ひぇー、私、無いことにかけては自信ありますぅ。

鈴木　そう思っていたはずの玲奈なのに、どうしてお客がついていくのかしら。

佐藤　それは、玲奈は……まじめだから？

鈴木　そう、まじめであることの価値をきちんと描いているところが、この本のいちばんいいところよ。

佐藤　確かに美香からも、店長からも、そして玲奈が新しい世界をみつけようとした時も、基本的にみんなが彼女を評価したのは、そのまじめさだったんですよね。

鈴木　ある日突然人気が出たりはしないのよ。売れっ子の美香だってトイレの中でお客さんの情報を必死でメモしてたでしょ。生徒が勉強するのと同じじゃない。

佐藤　ええ。№1になるための努力ってすごいんだなあって、とても感動しました。

鈴木　それから「ありがとう」と「ごめんなさい」のところも心にしみたわね。

佐藤　眠る前に「ありがとう」と「ごめんなさい」って言葉を、その日何回言ったか書き出してみるんですよね。

鈴木　そしたら「ありがとう」っていう言葉をほとんど言ってないことに気がつくの。

佐藤　自分では言ってるつもりになってたんですよね。だって心の中では感謝してるんだから。でも口に出して言ってはいなかった……。

鈴木　思っていても行動に表さなかったら伝わらないの。「ありがとう」「ごめんなさい」感謝の気持ちをきちんと言葉にすることによって、人と人はつながっていくのよ。

佐藤　反省します。

鈴木　で、あなたはどこ？

佐藤　私は玲奈が夜、鏡の前で微笑(ほほえ)む練習をする場面で胸がきゅんってなりました。

鈴木　なるほど。

佐藤　みんな見えないところで頑張ってるんだなあって思うと、なんかいじらしくて……。思わず涙が出そうになったんです。がんばれ、私！

鈴木　ふぁいとぉ〜。

『ぼくと１ルピーの神様』　ヴィカス・スワラップ　子安亜弥訳　ランダムハウス講談社
２０１２・７・１１

インドのスラムに暮らす少年がテレビのクイズ番組に出場して全問正解し、史上最高額の賞金を獲得する。スラムの孤児のウェイターが次々と難問に答えられたのには何か裏があるとにらんだ警察は、少年を逮捕した。しかし「奇蹟」には理由があったのだ。インドの苛烈な現実と彼が経てきた数奇な人生、答えはその中にこそあった。幸運を招く一枚のコインに導かれ、優しく残酷なサクセスストーリーが展開する。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　いよいよロンドン・オリンピックですね。
鈴木　楽しみ？
佐藤　それはもう。わくわくします。27日の開会式、総合演出は誰がするんですか？
鈴木　映画監督のダニー・ボイルよ。
佐藤　どんな映画を撮った人？

鈴木　2009年に『**おくり人**』がアカデミー外国語映画賞を取った時のことは覚えてる？

佐藤　ええ。山形、盛り上がりましたよね。

鈴木　あの時『**スラムドッグ＄ミリオネア**』で第81回米アカデミー賞作品賞と監督賞を取ったのがダニー・ボイルよ。少年が主人公だし、現代インドの現実を知る上でも、原作の『**ぼくと１ルピーの神様**』は西高生にすすめられるんじゃない？

佐藤　主人公は確かジャマール・マリクって言ってましたよね。

鈴木　映画ではそうだったけど、原作ではラム・ムハンマド・トーマス・マリクよ。

佐藤　ながっ！

鈴木　ラムはヒンドゥー教の、ムハンマドはイスラム教の、トーマスはキリスト教の典型的な名前の一つなの。

佐藤　かかわる相手によって名前を変えながら生きてきたということでしょうか？

鈴木　彼の過酷な人生とインドという多民族・多宗教社会を象徴している名前だわ。

佐藤　たくましい生き方ですね。映画では当たり前のように主人公たちが英語を話してましたけど、インドの人たちはみんな英語が話せるんでしょうか？

鈴木　スラムに育った少年が英語を話せるのはまれらしいわ。小説ではそこのところも重要な鍵になってるのよ。

佐藤　彼が住んでいるのはインド西部にある都市ムンバイ。

鈴木　昔のボンベイね。

佐藤　その中にある大きなスラムで暮らしてます。

鈴木　ムンバイはインド最大の商業都市で、昔、南まわりでフランスに行った時、トランジット（航空機で目的国に行く途中、給油などのために一時他国の空港に立ち寄ること）でボンベイ空港に降りたことがあったけど、飛行場の中が白檀（びゃくだん）の香りに満ちていたのを覚えているわ。映画産業がとても盛んな街よ。

佐藤　ボリウッドですね。

鈴木　ええ。おまけにムンバイの中心部にはアジア最大級のスラムがあって、そこだけで100万人以上が暮らしてるんだって。

佐藤　えっ、100万人？　山形県の人口ってだいたい115万人ですよ。ムンバイでは山形県民がみんなスラムに住んでるってことですか！　＊2016年11月速報値は約111万人

鈴木　スラムの広さは約2.5平方キロ。飛島よりはちょっと狭いけど、イメージとしては、山形県民がみんな飛島に住んでスラム化してるみたいな感じかしら。

佐藤　ひえーっ、ありえないですぅ！

鈴木　それがインドの現実なのよ。

佐藤　……映画では過激な描写がちょっと。

鈴木　そんなスラムから物語を展開すれば、極度の貧困、宗教対立、児童虐待、強盗、売春、みんな避けては通れないわ。この本は、世界で41の言語に翻訳されたって言うから、インドの暗部を描きすぎだって、国内で作者が非難されたらしいんだけど。

佐藤　作者って？

鈴木　今、日本にいるわよ。

佐藤　えっ！

鈴木　現役の外交官で、三年前から大阪駐在のインド総領事をやってるの。

佐藤　そ、そうなんですか！

鈴木　「壁の穴プロジェクト」って知ってる？

佐藤　スーパー・プレゼンテーション（ＴＥＤカンファレンス）で見ました。スラムの壁に穴を開け、設置したパソコンを無料で使わせるんですよね。そうすると学校に行ったこともない子どもたちが、見よう見まねでインターネットを自在にあやつり始める。

鈴木　作者はあれを知って「誰もが機会さえあれば何かができる。知識はエリートだけの領域ではない」って刺激を受けたそうよ。いつかこの思いを小説にしてみたいって。小説には映画よりたくさん伏線が張ってあるから、その点映画よりも楽しめると思うわ。

佐藤　12章のほぼ独立したエピソードで構成されてるから、読みやすそうですね。

鈴木　主人公と一緒にクイズ番組につきあいながらインドの深奥に潜ってみるのも一興よ。

佐藤　インドの小説かあ、たぶん初めてかも。

『サクリファイス』　近藤史恵　新潮社　2012・8・23

ただあの人を勝たせるために走る。それが僕のすべてだ。勝つことを義務づけられた「エース」とそれをサポートする「アシスト」。それが冷酷に分担された世界、それが自転車ロードレースの世界だ。初めて抜擢（ばってき）された海外遠征で、僕は思いも寄らない悲劇に遭遇する。それは単なる事故のはずだったのだが……。青春小説とミステリーが高次元で融合した傑作。

＊「BOOK」データベースを参考に作成

鈴木　明日のお休みはどうするの？

佐藤　友達とサイクリングに行こうかなあ。

鈴木　まあ、いいわね。どのあたり？

佐藤　さくらんぼサイクリングロードです

鈴木　西川町の間沢（まざわ）から寒河江（さがえ）の慈恩寺と山寺を結ぶ県内最長の自転車道ね。37㎞くらいあったかしら？

佐藤　ええ、明日は全部走るわけじゃないんですけど、最上川や寒河江川沿いはさわやかだし、晴れると月山がくっきり見えてとても気持ちがいいんですよ。

鈴木　あの本の影響ね？

佐藤　ええ、近藤史恵の『**サクリファイス**』です。

鈴木　今のところ、続編の『**エデン**』と、その前後を扱った『**サヴァイブ**』の三つのシリーズ作品が出てるわね。もっともっと続きそう。　＊長編『スティグマータ』が2016年に刊行

佐藤　『**サヴァイブ**』で別の人の視点から主人公を見るのって、とても新鮮でした。

鈴木　スピンオフ（登場人物の一人を新たな主人公にした物語）って言うのよ。

佐藤　本屋大賞で二位になったり大藪春彦賞を取ったり、すごく評判が高かったんですよね。でも自転車競技なんてさっぱり分からないし、おそるおそる手に取ったんですけど、あまりのおもしろさにぶっとびました。

鈴木　アマゾンの書き込みが今日の時点で123件っていうのも半端じゃないわよね。

佐藤　ツール・ド・フランスって話には聞くんですけど、どんな感じなんですか？

鈴木　そうね。箱根駅伝が三週間続くみたいな感じかな。毎日テレビ放映されて、今日は平坦コース、明日は山岳コース、今日の一位は誰で、総合一位は誰だとか。

佐藤　やっぱり長距離が得意な人とか、山のぼりが得意な人とかいるんですね。

鈴木　「フランス一周」という名前の通り、毎年七月に23日かけてフランス中を回るんだけど、来年はイギリスのヨークシャー州のリーズが出発点だし、年によってスペイン、イタリア、スイス、ベルギーあたりも走るのよ。

佐藤　ゴールはシャンゼリゼ？

鈴木　そう。優勝争いは実質前日までで決まるから、総合一位の選手がシャンゼリゼに入る時は、最終日のレースにけりがついた後で、落車しないようにチームメイトにがっちりガードされて乗り込んでくるのが普通だわ。シャンパンを互いに回し飲みしながらね。このあたり、最後の最後まであきらめるなっていう日本的感性からは、ほど遠いものがあるわね。ふふ。

佐藤　確かに、自転車ロードレースって「団体競技」だったんですね。初めて知りました。

鈴木　もちろん個人競技なんだけど、でも、勝つ人とそれを支える人の役割がはっきり分かれてるという意味では「団体競技」とも言えるわね。

佐藤　マラソンでもよくやってますけど、自分のチームにペースメーカーの役割の人がいたり、風よけになって前を走ってくれる人がいたりしたら、本命の人は楽ですよね。

鈴木　同僚が勝つことをあきらめることによって成り立つシステムそれがロードレースなの。

佐藤　そのロードレースの持つ構造が物語全体を支配しています。

鈴木　エースの思い、アシストの思い、エースの座を狙(ねら)う者の思い、そして別のチームのライバルたちの思い……。もうドラマだわ。

佐藤　主人公の白石誓(ちかう)がまた魅力的なんですよね。

鈴木　あなたああいう人好み？

佐藤　あの人を嫌いになるのって難しいですよ。彼は、何と言うか、自分の価値観に従って行動しますよね。いろいろ選択する場面になると、自分に不利益になると分かっていても、必ず倫理的に正しい方を選択して、ごちゃごちゃ言い訳をしません。

鈴木　けっしてでしゃばらないからロードレースのアシストに向いていたんでしょうね。でも彼の失恋もやるせないわ。

佐藤　私なら絶対振ったりしないのに。

鈴木　「**サクリファイス**」の意味が明らかになるラストはどうだった？

佐藤　ネタバレになっちゃうから余り言えませんけど、「**サクリファイス**」の意味が重層的でしたねえ。

鈴木　そこが作家の腕のみせどころじゃない。

佐藤　読者の予想を次々に裏切り続けてカタルシスに追い込む。エンターテインメントの王道です。

鈴木　この読後感の切なさは青春の切なさをそのまま反映してるから、あの頃の痛みをもう一度体験するみたいでとてもつらかったわ。

佐藤　鈴木さんの青春って……、ああ『**三丁目の夕日**』の頃ですね。

『くちびるに歌を』　中田永一　小学館　２０１２・１０・１

長崎県五島列島の中学校の合唱部では顧問の松山先生が産休に入るため、中学時代の同級生で東京の音大に進んだ柏木先生に産代をお願いする。元神童で自称ニート、美しすぎる臨時教員柏木の出現に、それまで女子部員しかいなかった合唱部に、男子生徒が多数入部する。ほどなくして練習にまじめに打ち込まない男子部員と女子部員の対立が激化していった。

一方で柏木先生は、ＮＨＫコンクールの課題曲「手紙～拝啓 十五の君へ～」にちなみ、15年後の自分に向けて手紙を書くよう、部員たちに宿題を課した。提出は義務づけていなかったこともあり、彼らの書いた手紙には、誰にも言えない等身大の秘密が綴（つづ）られていた。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　今回は西高生、絶対に、絶対に、必読です！

鈴木　お願い、落ち着いて。

佐藤　だって本の題名は『**くちびるに歌を**』なんですよ！　プロローグの最後の二行は「いつまでも忘れないようにしよう。／自分には、いっしょに歌ってくれる仲間がいたのだということを。」なんですから！

鈴木　い、いいわね。

佐藤　何しろ西高は、「入学式の式辞にはさっぱり感動しなかったけど、音楽部の校歌の合唱には涙が出てきた」って言われて校長先生がとっても悔しがってるという学校ですから。

鈴木　まあ、すてき。

佐藤　それに何と言っても校内合唱コンクールが最高なんです。忙しい学校だから練習に割(さ)けるのは短い期間なんですけど、各クラスでは音楽部を中心に、しっかり発声をやって、解釈したことを音に乗せ、心を一つにして。それはもう本格的なんですよ。

鈴木　そう言えばいつか出勤するとき、県民会館あたりで西高生が歌ってたわね。

佐藤　街を行く人たちの驚いた顔や微笑む顔に包まれながら、青空の下で仲間たちと一緒に声を合わせて歌うことのできる幸せ。あんな時はもう二度と戻って来ません！

鈴木　あなた目がうるんでるけど、大丈夫？

佐藤　うううう。

鈴木　よしよし。

佐藤　ストーリーは青春小説の王道ですよね。

鈴木　ええ、何も奇をてらった表現や仕掛けがあるわけではないわ。小さな島を舞台にしたすがすがしい成長物語が、さわやかな読後感をしっかり保証しているのよ。

佐藤　もし特徴があるとすれば、ある登場人物の兄が持っている発達障害について正面から扱っているところでしょうか。

鈴木　そうね。

佐藤　お父さんやお母さんとは違った形でかかわる弟の心情が描かれています。

鈴木　最後の最後でそれが効(き)いてくるわ。

佐藤　西高の生徒たちは、嚶鳴祭で演劇部の「きょうだい」という発達障害を持った家族の劇を見てるので、きっとこの物語の読みも深いと思います。

鈴木　なるほど。じゃあ、お約束の片思いシーンはどうだった？

佐藤　鈴木さん！　どうして自分が高まったときに相手は別の人のことを思うんでしょう！

鈴木　私に聞かないで。

佐藤　いつもそうなんです。やっとの思いで自分の気持ちを確かめて、今度こそと思って告白しようとすると、なぜか相手はもう私の方を見ていないんです。どうしてなんですか！

鈴木　だから、私に聞かないでって言ってるでしょ。

佐藤　だって私より振られた回数多そうじゃないですか。

鈴木　ううう。

佐藤　最後のところ、お兄さんに歌を聞かせてあげる場面は泣けましたね。

鈴木　あそこは感動するわ。

佐藤　歌を歌い続けてきた人はどこかで経験しているシーンのような気がします。

鈴木　一人で歌う歌もあるけれど、歌は相手に届くことによってその価値が何倍にもなるものだから、誰かのために歌った歌は、歌う方も歌われた方もきっと忘れられない大切な思い出

になっているでしょうね。

＊山形西高合唱団の定期演奏会でもしばしば取り上げられる合唱曲「くちびるに歌を」（信長貴富作曲）はＹｏｕＴｕｂｅで視聴可能。

『喋々喃々』　小川糸　ポプラ社　２０１２・１１・２０

東京・谷中でアンティークきものの店「ひめまつ屋」を営む主人公の栞。きものを求めるお客ばかりでなく、ご近所さんもふらりと訪れては腰を落ち着ける、ほんわかした小さな店である。ある日、この店に父とそっくりの声をした男性客がやってくる。その人は、栞の心の中で次第に存在感を増していき、やがてかけがえのない時間を一緒に過ごすようになる。

人を大切に思う気持ち、つつましやかな日々の暮らしが、東京・下町の季節の移ろいとともに描き出される、きらめくような物語。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　あっ、またいけない本持ってる！
佐藤　（ぎくっ）
鈴木　どうしてあなたはそうなの？
佐藤　だってぇ。
鈴木　今、小川糸を紹介するのは分かるわよ。山形市出身だし、この前までＮＨＫの土曜ドラマ

で『**つるかめ助産院**』（全8回）が放送されたばかりだし。

佐藤　仲里依紗、がんばってましたね。

鈴木　だったら素直に『**つるかめ助産院**』を紹介すればいいじゃない。読んだ時に「生きる希望がわいてくる！　今までのでいちばんいい」って言ってたんだし。

佐藤　……。

鈴木　デビュー作の『**食堂かたつむり**』はどうなの？　宮沢りえは、作者との対談の中で「子育てしながら一気に読んだ」って感激してたわよ。脱力しながら力がわいてくるっていう不思議な本だけど、西高にも波長が合う人きっといると思うんだけどなあ。

佐藤　そうなんですけど……。

鈴木　どうしてよりによって『**喋々喃々**』なのかしら？　第一、高校生に「喋々喃々」の意味、分かるの？

佐藤　男女がうちとけて小声で語り合う様子…って、分かるわけないじゃないですか！

鈴木　学校では教えないか。

佐藤　教えないですよ。だから読む価値があるんですよーだ。

鈴木　相変わらず困った人ねえ。また保護者の人が読んだりしないか、心配だわ。

佐藤　『**喋々喃々**』を読んだら東京に行って谷中・根津・千駄木（せんだぎ）界隈を歩き回らないではいられなくなりますって。

鈴木　雑誌『**谷根千**（やねせん）』が創刊されたのが1984年だから、あのあたりを歩くブームが起きたのも、

もうだいぶ前になるわね。東京の下町にある谷中・根津・千駄木あたりは戦災に遭(あ)わなかったから、かつての江戸風情(ふぜい)を少なからず残しているし、お寺や墓地がたくさんあって緑も多いのよね。

佐藤　根津のたいやき食べました？

鈴木　もちろん食べながらまわったわ。

佐藤　谷中の七福神は？

鈴木　行ったわよ。路地を抜けながらお参りしたわ。

佐藤　西高の生徒たちは、将来東京に行く人も多いと思うんですけど、今はどこも再開発が進んで、昔の面影をしのべるところが少なくなって来ましたよね。

鈴木　今年はスカイツリーに始まって、渋谷にヒカリエがオープンしたり、改装した東京駅がお披露目したりして、東京大注目の年だったわ。

佐藤　どうしてもそういうメジャーなところに目が行きがちですけど、「谷根千」に代表されるような、しっとりした下町を散歩する楽しみも知ってほしいなあって思うんです。

鈴木　本当ね。この前、日暮里(にっぽり)富士見坂に行ってきたけど、ここから富士山が見えるのももう少しだって、歩いたり自転車に乗ったりして、たくさん人が集まっていたわよ。

佐藤　もうすぐマンションの方が高くなっちゃうんですもんねえ。急がないと。

鈴木　で、肝心(かんじん)のお話、ストーリーの方はどうなのかしら。

佐藤　これは間違いなくいけないお話だと思います。校長先生はこの本をおもしろいと言って、

奥さんに叱(しか)られたそうです。

鈴木　やっぱりね。それでなんと言ってごまかしたの？

佐藤　例えば向島百花園(むこうじまひゃっかえん)で開かれた月見の会のエピソードがありますよね。

鈴木　ええ、雅(みやび)やかな琴の音(ね)が響き渡る夜のお茶会ね。私も行ってみたいわ。

佐藤　そこで栞の好きな春一郎さんが言った「お茶会って宝探しみたなものですよね」っていう言葉が深いとか。

鈴木　なるほど。

佐藤　春一郎さんが作ったカレーうどんに「すり下ろしたじゃが芋と蓮根と、少しだけ生姜の搾(しぼ)り汁が入れてある」のが渋いとか。

鈴木　……。

佐藤　お母さんの「たこ焼きの味噌汁」は試してみる価値があるんじゃないかとか。

鈴木　それで奥さんは納得したの？

佐藤　しなかったそうです。

『風が強く吹いている』　三浦しをん　新潮文庫　２０１２・１２・１７

箱根駅伝を走りたい……そんな灰二（はいじ）の想いが天才ランナー走（かける）と出会って動き出す。才能に恵まれ、走ることを愛しながら、走ることから見放されかけていた清瀬灰二と蔵原走。奇跡のような出会いから、二人は陸上とかけ離れていた者とともに箱根駅伝に挑む。たった十人で、それぞれの頂点をめざして。長距離を走るために、そして生きていくために必要な真の「強さ」を全力で謳（うた）い上げる最強のノンストップ青春小説。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　お正月は何してたの？
佐藤　もちろんおせちをたらふく食って、あとはテレビを見まくりです。
鈴木　完全に「おじさん化」してるわね。
佐藤　「こたつの友」と言って下さい。
鈴木　どんな番組が楽しみなの？
佐藤　もちろん駅伝！　箱根でんがな！
鈴木　あなたも箱根ファン？　最近多いわね。

佐藤　だって昨年までは東洋大学に「山の神」柏原がいて、超人的な走りに大興奮していましたし（東洋大は毎年上山の坊平高原で合宿してるんですよ）、年末には高校駅伝の放送もあるし、いつもわくわくしながら見ています。

鈴木　それだから有力選手が関東の大学にしか進学しないとか、本来マラソンランナーになるべき選手も駅伝の距離しか練習しないとか、弊害がたくさん指摘されるのよ。

佐藤　でも、東京の街並み、美しい海岸線、温泉街、トンネル、芦ノ湖、そして富士山！

鈴木　箱根駅伝の持つ長い伝統とドラマには抗いがたい魅力があるのも事実なのよねえ。

佐藤　だから今回は三浦しをんの『**風が強く吹いている**』で行きましょう。

鈴木　あら、まともだこと。

佐藤　構想から六年の歳月をかけ、徹底した取材に基づいて作り上げた作品で、雑誌ダ・ヴィンチの読者が選んだ「夢に向かって背中を押してもらえた本」第一位です。

佐藤　今年ももうドラマは始まってますね。

鈴木　ほんとね。箱根は前年度で十位以内に入ったチームが次年度のシード権を獲得するシステムだから、シード校以外のチームは予選会から参加するんだけど、この秋に行われた予選会では、東海大学がまさかの12位で予選落ち。今年は東海の怪物・村沢の走りを見ることができなくなっちゃったわね。

佐藤　故障続きでしたもんねえ。

鈴木　一年時の予選会では個人一位。本番の箱根では三年連続で花の二区を走って、特に二年時

の走りは圧巻！　何と17人抜き。

佐藤　最下位の20位でたすきを受け取って、次の走者に渡す時には三位だったんだから、もうほんとにドラマみたいでした。

鈴木　その村沢が大学四年の最後の箱根を走れないなんて、誰が想像したでしょう。

佐藤　本の中に「俺たちが行きたいのは、箱根じゃない。走ることによってだけたどりつける、どこかもっと遠く、深く、美しい場所」ってありましたね。村沢選手も何かつかんでくれるといいですね。

鈴木　ドラマだったら『**風が強く吹いている**』だって負けてないんじゃない？

佐藤　ありえない設定だってのは分かってるんです。でも読み始めると、いつのまにか夢中になって応援している自分を発見してしまいます。もう胸が熱くなってしまって。

鈴木　実は私が読んでて一番心配したのは、こんなに早く箱根を走り始めて話がもつのかということだったんだけど。

佐藤　確かに、あの実力の無さからいけば、ようやく十人がそろって、記録会と予選会を通過し、さあこれから箱根に出るぞ、あたりで終わってもおかしくないストーリーだったと思います。

鈴木　でも話が最後までもったどころか、大感動までつながっていったのはなぜ？

佐藤　箱根に出る前と後では作者の書き方が変わってますよね。

鈴木　さすがね。ストーリーだけで引っ張ってるんじゃないことに気づくとは頼もしいわ。

佐藤　当然ですよ。西高で国語を習ったんですから。

鈴木　前半はメンバー紹介を兼ねながらおもしろおかしく話が展開していくのよね。

佐藤　後半は緊迫したレース展開の中で一人ひとりの内面が深く掘り下げられていきます。むしろ抑えたタッチが効果的。

鈴木　そして一人だけで生きてきたと思い込んでいた人間が、一本のたすきをつなぐことを通して「自分以外のだれかを恃(たの)む尊さ」に気づいていくのよね。

佐藤　つなぐことの大切さ。これでんがな！

鈴木　……あなたも少し走ったら？

『西の魔女が死んだ』　梨木香歩　新潮社　２０１３・１・２３

中学に進んでまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月余りを「西の魔女」のもとで過ごした。「西の魔女」とはママのママ、つまり大好きなおばあちゃんのことだ。そこでまいは「魔女修行」を始めた。野苺（いちご）を摘んでジャムをつくったり、ハーブで草木の虫を除いたり、身近な自然を感じながら心地よい生活が始まる。まいの傷ついた心は次第に癒（いや）されていくのだった。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　お正月もあっという間だったわね。
佐藤　そろそろお仕事モードに戻らないと。
鈴木　その前にセーターの下に隠れてるものを何とかしたら？
佐藤　ぎゃうん！　わ、分かりますか？
鈴木　今月号の「クロワッサン」の特集見たでしょ？
佐藤　えっ、どれどれ？　「お腹（なか）ぽっこりが問題だ！」　ひぇー。
鈴木　こたつの友なんて言ってるからそうなるのよ。魔女になる修行でも始めてみたら？

佐藤　『西の魔女が死んだ』ですね？
鈴木　そうよ。
佐藤　じゃあ、レタスとキンレンカのサンドイッチ！
鈴木　ワイルド・ストロベリー・ジャム！
佐藤　産みたての卵のハムエッグ！
鈴木　心落ち着かせるミントティー！
佐藤　好き通ったきれいな色のゼリー！
鈴木　パパの好きなキッシュ！
佐藤　えっ？
鈴木　キッシュはカロリー高いか。でもどうして本の紹介が食べ物の紹介になっちゃうの？
佐藤　しょうがないですよ。校長先生は、ベーコンとほうれんそうと、えのきのキッシュを作るのが大好きだって言ってましたから。
鈴木　……。
佐藤　冷凍のパイシートを使えば、そんなに難しくないって言ってましたよ。
鈴木　その人、学校に置いててほんとうに大丈夫なの？
佐藤　教育委員会でも心配してるらしいです。
鈴木　（気を取り直して）魔女は言うわ。
「自分が楽に生きられる場所を求めたからといって後ろめたく思う必要はありませんよ。

サボテンは水の中に生える必要はないし、蓮(はす)の花は空中では咲かない。シロクマがハワイより北極で生きる方を選んだからといって、だれがシロクマを責めますか。」

佐藤　魔女って言っても、例のほうきに乗って悪いことをする人っていうわけじゃないんですよね。

鈴木　そう、不思議な予知能力を別にすれば、さっき言った「自然のリズムに同期して生きる人たち」のことを言ってるんだと思うわ。

佐藤　だから魔女になる修行を始めようとしたまいが言われたのは、「早寝早起きすること」「食事をしっかり取ること」「よく運動すること」「規則正しい生活をすること」……って、これのどこが魔女修行なんですか！

鈴木　笑福亭鶴瓶の言葉知ってる？

佐藤　？

鈴木　「部屋をきれいにする、約束を守る、お礼の手紙を書く、そういう基礎をきっちり続けることが、自分の型の基本をつくってくれたと思っています」。

佐藤　鶴瓶も魔女修行したんですか？

鈴木　おばあちゃんと鶴瓶で人間を代表させるのは難しいけれど、修行の基本は誰でも同じということじゃないかしら。

佐藤　魔女になるための必要条件は？

鈴木　「自分で決めること」

佐藤　魔女の直感は？

鈴木　「魔女は自分の直感を大事にしなければなりません。でも、その直感に取りつかれてはなりません。そうなると、それはもう、激しい思い込み、妄想となって、その人自身を支配してしまうのです」。

佐藤　大人になる前に、もっと早くこの本に出合いたかったなあ。

鈴木　大丈夫。二時間もあれば読めてしまう本だし、一度読んだ人も再読すれば、また新たな発見もあるわよ。あなたのお腹（なか）もきっとへこむと思うわ。

佐藤　そうですね。えーと「間食するならシリアルバーがおすすめ」って書いてあります。

鈴木　そんなところあったかしら？

佐藤　いえ、これは「クロワッサン」の方ですけど。

鈴木　あなた……魔女への道は遠いわね。

＊新潮文庫には、まいの後日譚『**渡りの一日**』が併録されている。少年少女は必読。

『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』　万城目学（まきめ）　角川書店　２０１３・３・１９

かのこちゃんは小学一年生の女の子。玄三郎はかのこちゃんの家の年老いた柴犬。マドレーヌ夫人は外国語（つまり犬語）を話せるアカトラの猫。ゲリラ豪雨が襲ったある日、玄三郎の犬小屋にマドレーヌ夫人が逃げ込んできて……。元気なかのこちゃんの活躍、気高いマドレーヌ夫人の冒険、この世の不思議、うれしい出会い、いつか訪れる別れ。誰もが通り過ぎた日々が、キラキラした輝きとともに蘇（よみがえ）り、やがて静かな余韻が心の奥底に染みわたる。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　だいぶ春めいて来たわね。
佐藤　くすん、別れの季節です。
鈴木　西高には何を紹介するの？
佐藤　万城目学の『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』はどうでしょう？
鈴木　あなたけんか売ってるの？　今年度最後の本なのに。
佐藤　だ、だめですか？
鈴木　この本は平成22年度上半期の第143回直木賞の候補作だったでしょ？

佐藤　知ってますよ。あの時は、主人公が山形出身という設定だった中島京子の『**小さいおうち**』が受賞したんですよね。

鈴木　そう。『**かのこちゃんとマドレーヌ夫人**』は、冲方丁（うぶかたとう）の『**天地明察**』などと一緒に落選したの。

佐藤　それが何か？

鈴木　その時の『**かのこちゃんとマドレーヌ夫人**』に対する選考委員のコメントはとても厳しいもので、「この作者の次作に期待する、と述べるに留めておこうと私は思う」はまだいい方で、ひどいのになると「これがどうして直木賞の候補になったのかよくわからない」。あげくの果ては「コメントなし」が二人。さんざんだったわ。

佐藤　そうだったんですか。

鈴木　でもアマゾンのカスタマー・レビューは、今日の時点で43件あって、ほとんどが☆五つと☆四つ。

佐藤　どういうことでしょう？

鈴木　たぶんプロの目にはもの足りなく映るかもしれないけれど、私たちのような、毎日普通の暮らしをしている人たちにとっては大切な物語が息づいている作品、ということなんじゃないかしら。

佐藤　なるほど。じゃあ大丈夫ですよ。池上冬樹さんに推薦するわけじゃないんですから。

鈴木　山形市沼木に住んでる文芸評論家の池上さんね。

佐藤　ええ。この前も校長室に来て、おしゃべりした後、一緒に飲みに行ったみたいですよ。

鈴木　へえ。

佐藤　自分の文章をいちばん厳しく批評して、ちゃんと指導してくれるのが池上さんだからとてもありがたいって、校長先生言ってました。

鈴木　ふーん。

佐藤　校長先生はハードボイルド小説を読んで大きくなったので、池上さんの書評はずーっと昔から読んでいたんですって。

鈴木　同じ山形生まれだなんて全然知らないで読んでたわけね。

佐藤　そうなんです。不思議な縁ですね。縁と言えば、池上さんとオックスフォード大学の苅谷剛彦（たけ）先生は同じ時期に朝日新聞の書評委員をやっていたから、ある年にはしょっちゅう顔を合わせていたことになるんです。その二人が前後して、同じ西高の校長室に来るなんて、人生ってほんと不思議ですね。

鈴木　朝日新聞？　だったら西高の生徒たちには、先月掲載された朝日新聞の記者による次の感想が参考になると思うわ。

佐藤　どんなのですか？

鈴木　「『**かのこちゃんとマドレーヌ夫人**』を一気に読んだ。主人公の小学一年生の女子と、口を『ω（オメガ）』の形に結ぶ猫が、それぞれに降りかかる苦境を夢中で乗り越える。彼らは、カワイイが、カワイイ自分を誰かにアピールして助けてもらおうなどとは思わない。

自ら考え、自ら行動する。いい年の大人でも、それら能動的なカワイイ生命体たちに、自分を重ねてのめり込める物語なのだ」。

佐藤　その記者って女の人でしょう？

鈴木　寺下真里加記者、そうね。

佐藤　やっぱりね。甘ちゃんの男の記者からはそういう感想出ませんもの。

鈴木　いいこと言うわね。

佐藤　さすが新聞記者。的確な表現、学びたいです。

鈴木　ほんとうね。

佐藤　それにしても万城目学、文章うまいですよね。

鈴木　妄想力もすごいけど。

佐藤　これだけ評価が分かれる本を西高の生徒たちはどう読むのか、楽しみだわ。

『少女ポリアンナ』エレナ・ポーター　木村由利子訳　角川文庫　　２０１３・５・２３

両親を亡くした11歳のポリアンナは、気むずかしい叔母、ミス・ポリーのもとに引き取られた。ポリアンナはどんなに辛(つら)いことがあっても、その中に「嬉(うれ)しい」ことを見つけるとたちまち元気になれる。そのお父さんとの約束、「嬉しい探し」ゲームは街中に広がり、ミス・ポリーや大人たちの冷たい心を変えていった。ところがそんなポリアンナが交通事故にあってしまい……。泣きたい時でも「嬉しい」を探そう！　みんなの心を変えたひとりの女の子の物語。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　新緑の映える季節になったわね。
佐藤　五月は西高図書館の貸出強化月間になってまーす。
鈴木　えっ、あなたまた西高から頼まれたの？
佐藤　いけませんかぁ？
鈴木　いけなかないけど、今年はちゃんとまともなものを紹介してね。
佐藤　それで新年度第一回は『**少女ポリアンナ**』でどうでしょう？
鈴木　（ずるっ）

佐藤　ど、どうかしましたか？

鈴木　それは、小学生の読み物じゃない！　私の娘が小さかった頃、『**愛少女ポリアンナ物語**』って、確かアニメでやってたわよ。

佐藤　ええ、ネロは探しに来たパトラッシュと一緒に生き絶えて天国に昇天するんですよね。涙なしでは見られませんでした。うう。

鈴木　それは『**フランダースの犬**』！

佐藤　へへ、もちろんですよ。そんなにおこらないで。でもテレビの『**愛少女ポリアンナ物語**』も、特に後半、原作を変えているので、あれを見て本を読んだ気になるのは危険ですよ。

鈴木　それはそうだけど。

佐藤　もちろん鈴木さんは村岡花子訳の『**少女パレアナ**』を読んだんですよね。

鈴木　ええ、そうよ。

佐藤　今私が持っているのは角川文庫からこの三月に出たばかりの「新訳」なんです。

鈴木　えっ、まだ新訳出てるの？

佐藤　当然ですよ。生きていく基本をこの作品から教(おそ)わった人たち、今でもたくさんいるんですから。未読の西高生にもおすすめです。まずは何と言っても「嬉しい探し」ゲームから。

鈴木　その言い方ピンと来ないわね。

佐藤　じゃあ「よかった探し」？　「喜びのゲーム」？

鈴木　私は「喜びのゲーム」だけど、原文では何て言ったっけ？

佐藤　“The Grad Game” です。

鈴木　どんなことにでも嬉しくなることを探す遊びなんだから「嬉しい探し」ゲームなの？　なんか落ち着かないわね。

佐藤　去年校長先生が生徒たちに話したことの中でいちばん反響があったのは、「本当に成長するのは、心を溶かされる側ではなく、心を溶かそうとする側の人間だ」という話だったそうです。

鈴木　ふーん、たまにはまともなことを言うのね。

佐藤　他の人の心を溶かそうとして、いつも傷ついていた生徒たちから、お陰ですごく楽になったって言われたそうです。

鈴木　なるほど。

佐藤　校長先生は小さい時にこの本を読んでから、いつも「嬉しいさがし」ゲームをしてきたので、少々のことでは大丈夫って言ってました。

鈴木　だからあの人いつも能天気なのね。

佐藤　でも、この『**少女ポリアンナ**』は、最近、意外な角度からも注目されるようになったんですよ。

鈴木　どんな？

佐藤　細谷亮太さん、知ってますよね。

鈴木　ええ、聖路加（せいろか）病院で小児がんやターミナル・ケア（終末期医療）を専門としていたお医者

さんで、校長先生と同じ河北町出身の人でしょ。

佐藤　ええ、昨年の毎日新聞でも細谷さんは、A・Jクローニン『**城砦**（じょうさい）』などと一緒に『**少女パレアナ**』を紹介してましたけど、ご自身の書いた本の中にも『**いつもいいことさがし**』という本があるくらい大好きな本なんだそうです。

鈴木　へえ。

佐藤　だからさっきのアニメ経由だけでなく、細谷亮太さん経由で『**少女パレアナ**』＝『**少女ポリアンナ**』を手に取る人が増えているみたいなんです。

鈴木　細谷さんは、将来に望みを持てない子どもたちに対して、いつも「大丈夫」と言ってきたんだけど（それはつらい仕事だったでしょうね）、その生き方を支えてきたのが「嬉しい探し」ゲームだったとしたら……そうね、私ももう一度読んでみようかしら。

『永遠の出口』　森絵都　集英社　２０１３・６・１１

私は、「永遠」という響きにめっぽう弱い子供だった。誕生会をめぐる小さな事件。黒魔女のように恐ろしい担任との闘い。ぐれかかった中学時代、バイト料で買った苺のケーキ。こてんぱんにくだけ散った高校での初恋……。どこにでもいる普通の少女、紀子の小学三年から高校三年までの九年間の変化と成長を描いた連作集。後に直木賞に輝くことになる森絵都が、児童文学を離れて新しい地平を目指した記念すべき作品。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　ひっ。

佐藤　どうかしましたかぁ？

鈴木　あなた、今持ってるのは、森絵都の『**永遠の出口**』でしょ。今度はそれを西高に紹介するわけ？

佐藤　いけませんかぁ。ぶぅ。

鈴木　『**いつかパラソルの下で**』というわけにはいかないと思うけど、森絵都だったら『**ＤＩＶＥ!!**』があるじゃない。ちょうど高校総体が終わったばかりだし、スポーツ小説、青春小説の傑

作よ。

佐藤　もちろん『ＤＩＶＥ!!』最高っす。でも西高には『**永遠の出口**』、これでしょう。

鈴木　作品として別格なのは分かるけど、主人公がぐれる話はまずくない？

佐藤　主人公がぐれたので読者もぐれてたら、人生いくつあっても足りないですよ。特に西高生は大丈夫ですって。

鈴木　ほんと？

佐藤　それに危ない本って、なぜか生徒のお母さんたちから評判いいんですよね。あの人たちも危ない人生送ってきたからかなあ。

鈴木　全体は九つの章とエピローグの計十個のストーリーで構成されてるのね。

佐藤　第一章は本の題名にもなってる「永遠の出口」で、小学校の三年生から四年生にかけての話です。

鈴木　この話を読むと、大人になることの定義の一つは「アイロニー（皮肉）を理解できるようになること」っていうのが、よく分かるわね。

佐藤　人生は思うようにはならないって？

鈴木　そう、紀子の場合でいうと……仲間と一緒に誕生会に呼ばれ、プレゼントをあげたのに何も食べさせてもらえず追い返される。どうして？　その不満をクラスで話すと、逆に自分たちが悪者になり、お母さんに誕生会をしてもらえないその子がみんなの同情を引く。えっ、どうして？　私の出したプレゼント代はどうなるの？　あのときの空腹は何だったの？

当然紀子は誕生会にその子を招待しない。そして、やましさに満ちた誕生会が終わると、その招待されなかった子が、何と紀子の家にプレゼントを持ってきたことを知る。ど、どうして？

佐藤　人生ってそういうことの繰り返しなんですか？

鈴木　必ずしもそうじゃないんだけど、そういう体験を経て人は強くなっていくのよ。みんなとは言わないけれど。

佐藤　そして紀子はその子の家をたずねて行き、おそるおそるノックします。

鈴木　するとその子のお母さんが出てきて、驚いたことに今度は夕食に誘われる。

佐藤　その子の家族と一緒に夕飯をごちそうになって家に帰ろうとすると、今度はその子がどこまでも送ってきて、戻ろうとしない。

鈴木　もういいよって帰そうとしたときにその子が言った言葉。

佐藤　「うちのお母さんの料理、おいしかった」って、明日、学校でみんなに言ってくれる？

鈴木　この言葉にこめられたその子の心情……切ないわねえ。大人になると分かるんだけど、その子の家が三人の子供たちの誕生会を開かなかった理由、それにもかかわらず誕生会を開いて仲間を呼びたかったその子の気持ち。

佐藤　切り口があざやかですよね。

鈴木　ほんと。あなたはどの話が好きだった？

佐藤　うーん、中学生になったときの「遠い瞳」かなあ。

鈴木　やっぱりそこか。

佐藤　この章は文学の持つ可能性をとてもよく示していると思うんです。

鈴木　確かに。

佐藤　最初におばさんからお母さんへの手紙から始まりますよね。

鈴木　欺瞞（ぎまん）に満ちた大人の視線と思慮の足りない思い込みがいっぱい詰め込まれた手紙ね。

佐藤　この手紙ともう一つ、紀子の視点から描かれる過激なストーリー（地の文）との対比によって、大人の思いと子どもの思いには、実は十万光年ぐらいの距離があることをあらわにします。

鈴木　歩み寄る方法はあると思う？

佐藤　うーん。

鈴木　紀子は決して立派な人間じゃなく、非難されるべき要素も多いんだけど、彼女の持つ「幼い」ポリシー、自分なりの哲学？　それを尊重できるかどうか、すべてはそこにかかっていると思うなあ……言うのは簡単だけど。

『しずかな日々』　椰月（やづき）美智子　講談社　２０１３・７・１６

おじいさんと一緒に過ごした日々は、今のぼくにとって唯一無二の帰る場所だ。ぼくは時折、あの頃のことを思い出す。降り始めた雨がしみこんでゆくときの土の匂い。記憶は次から次へとカードがめくれるようにわいてきて、あの、はじまりの夏を思い出させてくれる。ぼくはいつだってあの日に戻ることができる。大人になっていく少年の姿をやさしくすこやかに描きあげた感動作。西高向き。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　夏の読書のおすすめは？

鈴木　永遠の夏をイメージさせる物語といえば、やっぱり少年小説が王道ね。

佐藤　マキャモンの『少年時代』とか？

鈴木　ど真ん中のストライクだわって……このままだと七月七日の山形新聞に掲載された「あの時代（とき）この本　２人のティータイム」と同じになってしまうじゃない。

佐藤　七日の「ティータイム」の最後のところに前回の西高ヴァージョンを読んだ人なら思わずにやっとする仕掛けが施されていたんだけど、誰か気がついたかなあ。

鈴木　「少年時代」が永遠の夏をイメージさせるのに対し「少女時代」がそうならないのはどうしてかっていうところね。

佐藤　鈴木さんが、前回の『**永遠の出口**』を踏まえて「恐らく女の子たちの永遠にはどこかに出口があるからなんじゃないかなあ」って言ってたんですけど、新聞でそんな遊びをしても大丈夫なんですか？

鈴木　自動車のハンドルには「遊び」が設(もう)けられてること知ってるわよね。

佐藤　手の動きがそのまま伝わり過ぎると逆に危険なので、少しゆるく作ってあるってことですね。

鈴木　そうそう。

佐藤　勉強や仕事にも少し遊びがあるくらいがちょうどいいってこと？

鈴木　そんな遊びから思いがけない世界が広がって行くことがよくあるのよ。

佐藤　ふーん、そう言えば、校長先生のやってることって、どこまでが仕事でどこまでが遊びかよく分からないんです。

鈴木　遊びが多すぎるのも考えものだけどね。

佐藤　……。

鈴木　（首を回して肩のこりをほぐす。読者の皆さんもご一緒に）

佐藤　夏の読書のおすすめは何ですか？

鈴木　2007年に野間文芸賞と坪田譲治文学賞をダブル受賞した『**しずかな日々**』よ。小説が苦

手で、普段あまり小説を読まない人にこそ、ぜひ手にとってほしい作品だわ。

佐藤　どうして？

鈴木　まず文学というのは論理的な構築物じゃないから、いろいろ矛盾や逆説（パラドックス）を包含するものなのね。

佐藤　「へたうま」とか「いたかわいい」とかいうことですか。

鈴木　うーん、ちょっと違うけど、まあそういうことにしましょうか。それがあんまり複雑だと味わうにはある程度の修練が必要になってくるんだけど、この作品は本当に分かりやすく書いてあるから、安心して細部にひたりながら至福の読書体験ができるのよ。

佐藤　なるほど。

鈴木　もちろん分かりやすいからもの足りないということではないから誤解しないでね。

佐藤　本の帯に「入試問題に出る作品第一位」と書いてあったのはそのためでしょうか？

鈴木　そう、問題も作りやすいし、正答も作りやすいということだと思うわ。

佐藤　へえ。

鈴木　大人になるとたくさん複雑な本を読んでいくことになると思うんだけど、その原点に置いてもいい本だと思うなあ。

佐藤　主人公は小学五年生、まもなく夏休みを迎えようとしています。

鈴木　まさしく永遠の夏の始まりね。

佐藤　でも主人公は「すぴたれ」ですよ。

鈴木　よくそんな言葉知ってること。

佐藤　私、おばあちゃん子ですからね。うじうじしてなかなか積極的に出られない人を指す言葉です。

鈴木　そんな内気な少年が、素直な友人たちによって、人生の扉を少しずつ開けていくのね。このためらいがちに進んでいく静かな日々が読者の胸を打つんだと思うわ。心を洗われるってこういうことよ。

佐藤　今気づきましたけど、この小説には本当の悪人が出てきません。

鈴木　読後感をすがすがしいものにしている秘密の一つと言えるでしょうね。読み進めていくと山形県の読者に思わぬプレゼントが出てくるのもうれしいわ。

佐藤　とてもびっくりしました。これって読んだ人だけが味わえる特権ですよね。山形県の人にはぜひ手に取ってもらいたい本です。

鈴木　サプライズ付き！

『東京プリズン』　赤坂真理　河出書房新社　２０１３・８・２８

主人公は１９６４年生まれのマリ。東京で育った彼女は、中学卒業後、単身アメリカに渡る。ホームステイ先はメイン州、ポートランド。その16歳のマリと45歳になったマリ、そして東京裁判で資料翻訳をしていた母親が時に共存し、時に入れ替わり、時に一体化しながら、時空を超えてストーリーは展開する。合間にディベート・シーンが挟(はさ)み込まれ、時間や人物そして出来事が交錯しつつ東京裁判（極東国際軍事裁判）とその周辺の時代にアプローチしていく。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　じぇじぇじぇ。

佐藤　どうかしましたかぁ？

鈴木　あなた、今持ってるのは、赤坂真理の『**東京プリズン**』でしょ。今度はそれを西高に紹介するわけ？

佐藤　そうですよ。八月に読むのにぴったりじゃないですかぁ。

鈴木　確かに西高は、山形県内で唯一空襲による犠牲者を出している高校だから、平和について人一倍敏感じゃなきゃならないのは分かるわよ。でも、いくらなんでも『**東京プリズン**』は

過激すぎるんじゃない？

佐藤　だって今年の西高のテーマの一つは「考える力」（複眼）を育てることだっていうから、それじゃあこの本がぴったりだと思って。校長先生も去年のベスト１だって言ってましたよ。

鈴木　それはそうだけど。生徒たち読みこなせるか、心配だなあ。

佐藤　このくらい十分読めますって。

鈴木　ほんとに？

佐藤　討ち死にするかもしれませんけど……。

鈴木　まずキーワードの一つが「東京裁判」なんだけど、Ａ級戦犯とＢ級戦犯、Ｃ級戦犯の間にグレードの差はないっていうことは知ってたわよね。

佐藤　それが全然知らなかったんです。てっきりＡ級の人たちの方がＢ級やＣ級よりも罪が重い人たちなんだと思ってました。

鈴木　「ＣｌａｓｓＡ」を「Ａ級」と訳したことが誤解を招いていると思うんだけど、この場合の「Ｃｌａｓｓ」は「等級」を意味しているわけじゃないので、文系クラスと理系クラスに優劣の差がないように、Ａ級戦犯とＢ級戦犯の間に「程度」の差はないのよ。「Ａ類戦犯」「Ｂ類戦犯」とでも訳せばよかったわね。ちなみにＡ級戦犯は「平和に対する罪」を犯したとして訴追された人たちで、いわゆる戦争指導者たち。Ｂ級、Ｃ級戦犯は「通例の戦争犯罪」や「人道に対する罪」を犯したとして訴追された人たちのことよ。だからＡ級（Ａ類）では無罪だったけど、Ｂ級（Ｂ類）では有罪だったっていう例もあるの。

佐藤　そんなこと、マリだって知らなかったはずなのに、その程度の知識を基にアメリカで戦争についてディベートするなんて、私だったら、ずぇったい耐えられません。

鈴木　何しろ与えられた論題は「天皇に戦争責任はある」だからね。

佐藤　ひぇー、おまけにマリは肯定側（！）相手はアメリカ人、それを英語でディベートするなんて、考えただけで頭がくらくらしてきます。こういう状況をこしらえることのできる作家の頭の中ってどうなっているんでしょう。

鈴木　このディベートを通して、読者自身も自分の戦争観や歴史認識などを問われていくことになるんだけど、それはきつい体験ね。文学ってここまでできるんだって、きっと感動すると思うわ。

佐藤　仕掛けが凝ってますよね。

鈴木　マリが留学する先もメイン州。

佐藤　西高のＡＬＴのメーガンさんやアンドリアさんのカリフォルニア州なら知ってますけど、メイン州？

鈴木　アメリカ東部最北端の州よ。日本の姉妹県は青森県。

佐藤　ぶるるるる、寒そう。

鈴木　白人の割合が最も高い州だわ。じゃあここで「複眼思考」を使ってみると？

佐藤　人種間の対立が起きる確率が低いので、マリが犯罪に合う可能性は低いんじゃないでしょうか。でも差別を受ける可能性は高いと言えるかもしれませんね。

鈴木　確かにメイン州は、アメリカで最も犯罪発生率の低い、つまり治安のよい州の一つとして知られてるわね。差別の発生率というデータは探せなかったから、後の方はよく分からないけど、可能性としては高そうね。そう、今みたいに常に複数の視点から見て、話せるようにしていくことが大切よ。

佐藤　あと四十代のマリと十代のマリが電話で話をする場面もドキドキします。電話を取ったら、その先に若い頃の自分がいるなんて、こわいー。

鈴木　四十代のマリは、人生のどこかで何かが掛け違ったような気がしてるのね。そしてそのきっかけがこの留学にあったんじゃないかと疑ってる。だからその秘密を探ろうとするんだけど……。もしあなたが十代の自分と話ができたらどうする？

佐藤　えーっ、きっと「大丈夫、さすけぇねえ」って言ってやります。

鈴木　？

佐藤　みんな必死なんです。でも器用には生きられなくて、自分で自分を追い込んでしまって大変なんです。でも、もし電話がつながって、昔の自分と話をすることができたら、きっと「大丈夫、深呼吸して、のびのびやりなさい」、そう言ってやりたいです。大丈夫、さすけぇねえって。

鈴木　なんか、身につまされる話だわね。

＊『山形西高等学校百年史』から引用する。

四月十五日午後十時、空襲警報発令、アメリカのＢ29による川崎市への大爆撃が始められた。この大爆撃は二時間半にわたりくり返し行なわれ、遂に本校の教員一名、生徒五名の尊い犠牲者を出すにいたった。亡くなったのは田中恵美教諭と、明治産業で働いていた三組の熊谷ちよ、荒木礼子、奥山ふさ子、小関悦子、東芝電気で働いていた二組の鈴木キヨであり、その時の附添教員は小野芳次郎、薄井武夫、高城恒子、田中恵美、板井澄子の五名であった。

（中略……襲撃の中で逃げ惑い、友達が亡くなっていく様子を加藤智子が自ら述べた部分）

学校に空襲のことが知らされたのは、四月十七日の正午であった。校長はすぐに県と交渉、その日の夜九時の列車で、校長、横川、柴崎の三教員、県庁より四名、保護者四名が一緒に出発した。翌日川崎で校長らが見たのは、廃墟と化した工場と、その工場跡に立つ、作業服姿で疲労と恐怖に青ざめ、涙を流している生徒と教員の姿であった。焼け残った工場の門衛室には遺骨が安置されていた。

校長はすぐに工場や神奈川県と交渉し、その日の夜行列車で生徒全員を引き上げることとした。しかしまだ小関悦子は行方不明のまゝであった。また足に負傷したため横浜の病院に入院した大沼恭子と、その付き添いの高城恒子教諭は残ることとなった。山本校長も小関悦子を探すためと、大沼の入院を確かめるため川崎に残った。

四月十九日九時すぎ五体の遺骨と川崎動員の生徒が山形駅に着いた。全校生徒が駅から校門まで両側に並び、弔歌を歌いながら涙ながらに迎えた。弔歌は六人の遺霊に捧げるため、急ぎつくられたもので、作詞は片桐敏子（昭和十九年第一高女卒、山形師範女子部在学）、作曲は鈴木清太郎（山形師範学校助教授）になるものであった。

四月二十二日、午後一時より仮の講堂にて、まだ遺体の見つからない小関悦子を除く五名の学校葬が行われた。同級生を代表して小林安子が弔辞を読んだ。

（第五章　戦争と学園　空襲と尊い犠牲者　270〜273ページ）

『生きがいについて』　神谷美恵子　みすず書房　２０１３・９・２５

神谷美恵子は常に苦しむ人、慈(いつく)しむ人のそばにあろうとした。この本は人が生きていくことへの深いいとおしみとたゆみない思索に支えられた、まさに生きた思想の結晶である。１９６６年の初版以来、多くの人を慰め、力づけてきた永遠の名著。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　この前、西高の講演会に行ってきたわよね。

佐藤　はい。

鈴木　玄田有史(げんだゆうじ)先生はどういうお話をしてくださったの？

佐藤　「さすけぇねえ」です。

鈴木　さすけぇねえ？

佐藤　希望の四本柱ありますよね。

鈴木　Hope is a Wish for Something to Come True by Action.ね。

佐藤　はい。あの言葉、元々は Hope is a Wish for Something to Come True. だったじゃないですか？

鈴木　ええ。それに by Action を加えて、希望学における希望の定義が完成したのね。

佐藤　そうです。西高では、生徒が「東大の先生ってこだいおもしゃいの？」って言うくらいの爆笑講演会で、玄田先生はみんなをとっても楽しませながら、そんな希望に関する興味深い話をたくさんしてくださったんですけど、通奏低音として講演全体に流れていたのは、「さすけぇねえ、一歩踏み出せ」だったような気がするんです。

鈴木　迷ってもいいから悩んでもいいから、まずはやってみろ。希望はそこから生まれる。

佐藤　Let us try for today!

鈴木　そういえば玄田先生、この前の土曜日の朝五時半からＦＭ山形（ＦＭ東京）に出てたけど、話の間にかかっていた曲はサザンの「希望の轍（わだち）」だったわね。

佐藤　……鈴木さん、朝の五時にラジオ聴いてるんですか？

鈴木　悪い？

佐藤　悪くないですけど、毎朝、起きるのは何時？

鈴木　三時半だけど。

佐藤　！

鈴木　大丈夫よ。あなたもすぐそうなるから。

佐藤　なりませんって！　そんなことより、今回の講演会で、知性っていうのは本来のびやかなものだっていうことを後輩たちに感じてもらえたらうれしいですね。

鈴木　玄田先生がそのことを体現してたわけね？

佐藤　最高だったようです。校長先生も、講師として紹介してくれた苅谷先生に感謝してました。
鈴木　前の年に講演した苅谷先生が今年の玄田先生を紹介してくれたのね。
佐藤　去年の講演会の後、苅谷先生は校長先生の運転で山寺に行ったみたいなんです。そして五大堂から降りてきて、下で自分だけビールを飲んだ時、玄田先生の名前が浮かんだらしいって、校長先生うらめしそうに言ってました。
鈴木　ふふ。生徒にとっては幸せだったわね。
佐藤　はい。
鈴木　それで今回選ぶ本は？
佐藤　校長先生が講演会の前日、玄田先生と飲みながら「西高生へすすめる本」をお聞きしたんですって。
鈴木　ああ、その本、講演の中で紹介してくれたのね。
佐藤　忘れたみたいです。
鈴木　（ずるっ）
佐藤　それでその本を取り上げてみようと思うんですが、どうでしょう？
鈴木　いいわよ。
佐藤　玄田先生は、若いうちにできるだけ古典を読もうとおっしゃったそうです。
鈴木　ええ。
佐藤　時代の荒波を越えて残ってきた古典には、やはり学ぶべきものがあるって。

鈴木　それで何をすすめてくれたの？

佐藤　神谷美恵子の『**生きがいについて**』。

鈴木　……なるほど、確かに古典だわ。

佐藤　西高生読めるでしょうか？

鈴木　今の高校生の力で全員が最後まで読み通せるとは思えないわね。

佐藤　私もそう思います。

鈴木　でも「さすけぇねえ、一歩踏み出せ」なんでしょ？　どういう風にトライすればいいか、考えてみましょうよ。

佐藤　えーっと、まず手に取る。

鈴木　（ずるっ）

佐藤　玄田先生が勇気をもらったとブログに引用してる、『**生きがいについて**』の62ページ八行目からその段落最後の「若いひとのほうが生きがい感を持ちやすい理由の一つは、彼らが過去という重い荷に制約されることなく、すべてを未来にかけて、わき目もふらずに何ものかを創り出そうと力のかぎりをかたむけうるからである」のところを足場として、その前後のところを読んでみる。

鈴木　いいわね。「足場」はこの本を自分の力に変える時のキーワードだわ。

佐藤　神谷美恵子さんが「生きがい」を考察のテーマにしたことと、玄田先生が「希望」を学問の対象にしたことって、なんかベクトルの方向が似てますね。

鈴木　言えてるわ。そして『**生きがいについて**』の2004年版には、1980年版には無かった「執筆日記」が付いているでしょ？

佐藤　とても感動的です。

鈴木　そこをまず読んでみるのもいいと思うわ。付録のインタビューとかも含めて。

佐藤　「おわりに」の付記（286ページ）には著者が書いた自分の略歴があります。

鈴木　ジュネーブの少女時代、津田英学塾、ハンセン病との運命の出合い、肺結核から生き残ったことへの負い目、父に認められない医学部志望、コロンビア大学院留学、医学部への転向許可、そして精神医学。

佐藤　あの当時、娘から「ハンセン病を救うために医者になりたい」と言われたお父さんもつらかったでしょうね。

鈴木　結局、ハンセン病には精神医学の面からかかわることになるんだけど、前回との関連で言えば、東京裁判で東条英機の頭をはたいた大川周明（酒田市出身）の精神鑑定を手伝ったのは彼女だったわね。

佐藤　法廷にパジャマ姿で来て「イッツ・ア・コメディ」って言った人ですね。

鈴木　ええ。

佐藤　健常児でない子を授かったパール・バックが「中心をほんの少しでも自分自身から外（はず）せるようになった時」悲しみに耐える方向に向かうことができたとか（153ページ）、「ものの深いみかたと心の奥行きがうまれる」のは「心の複眼視」からとか（200ページ）印象的

な話がとても多いです。

鈴木　神谷さんが引用する資料の豊かさ（何というアイロニカルな響き）と時折見せる科学者としての冷静な視線、そして何よりも「対象に向かう考察の誠実さ」を味わうべきだと思うわ。

佐藤　内容はもちろん、どのように述べられているかに気づくことも大切ですものね。

『和菓子のアン』　坂木司　光文社　２０１３・１０・２１

デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子（きょう）（通称アンちゃん）はちょっぴり（？）太めの18歳。プロフェッショナルだけど個性的すぎる店長や同僚に囲まれる日々の中、歴史と遊び心に満ちた和菓子の奥深い魅力に目覚めていく。謎めいたお客さんたちの言動に秘められた意外な真相とは？　読めば思わず和菓子屋さんに走りたくなる、美味しいお仕事ミステリー。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　鈴木さん、世界でいちばん好きな場所ってどこですか？

鈴木　もちろん本屋か図書館よ。そんなの決まってるじゃない。

佐藤　じゃあ二番目に好きなのは？

鈴木　それはデパ地下。

佐藤　やっぱひ！　デパ地下いいでふよね。はぐはぐ。

鈴木　昔は七日町の大沼デパートの筋向かいに松坂屋があったから、ドンクのバゲットやパネトーネ、坂角（ばんかく）のおせんべい「ゆかり」なんかも山形市内で買えたんだけど、撤退しちゃったからなあ。

佐藤　えーっ、そうだったんですかぁ。
鈴木　今の子たちは南（なん）ジャスのようなショッピング・モールの方が好きなんじゃない？
佐藤　でもおばさんたちは今でもデパ地下の方でしょう。そんなに歩かなくていいし、街中のにぎやかなところにあるし。
鈴木　ふん、どうせ私はおばさんよ！
佐藤　まあまあ。今回はデパ地下を舞台にした小説を紹介しようと思うんです。
鈴木　もしかして『**和菓子のアン**』？
佐藤　当たりでふ。
鈴木　その、口に物を入れながら話すのやめてくれない？
佐藤　ふみまへん。
鈴木　自分だけ何食べてるのよ。
佐藤　腰掛庵のわらび餅。
鈴木　ずるーい。
佐藤　大丈夫。鈴木さんの分も取ってありますから、ほら。
鈴木　ありがとう。うーん、おいしいわね。あなた、どのくらい並んだの？　そういえば昨日午後から姿が見えなかったような……。
佐藤　『**東京プリズン**』、『**生きがいについて**』と来て、『**和菓子のアン**』につないでいいんでしょうか？

鈴木　別に、元に戻っただけじゃない。

佐藤　それはそうですけど。

鈴木　「法度（はっと）」や「重祚（ちょうそ）」の意味は分かるのに、「練切（ねりきり）」や「桃山」の意味を知らないって、ちょっとバランス悪いと思うわよ。（うーむ、そんな論理でつないでいいのか）

佐藤　じゃあ、鈴木さんの弱点って何ですか？

鈴木　私？　私の弱点は「すあま」かなあ。すあまの前を素通りするのは、なかなか難しいのよね。

佐藤　すあま？

鈴木　上新粉（うるち米を乾燥させて粉にしたもの）を水でこねて蒸してゆでたりしたお菓子を関東では「すあま」、関西では「しんこ」というの。蒸したりゆでたりした後に臼でついて弾力を出すから、さっぱりしたお餅みたいな感じのお菓子になるのよ。

佐藤　「すはま」とは違うんですか？

鈴木　「すはま」っていうのは、大豆や青豆を煎（い）って焼いた「州浜粉」に砂糖と水飴（あめ）を加えて練り合わせて作った和菓子で、元々は棹（さお）物よ。その断面のイメージから「州浜」って名付けられたんだけど、今は「すはま団子」の方が有名かもしれないわね。間違いやすいけど。「すあま」と「すはま」は別物よ。

佐藤　……鈴木さん、和菓子博士ですか？

鈴木　そんなの常識じゃない。

佐藤　来月、校長先生、京都に修学旅行に行くらしいんですけど、どんなお菓子を頼んだらいい

でしょう。

鈴木　そうねえ。清浄歓喜団（せいじょうかんきだん）なんかどうかしら？

佐藤　清浄歓喜団？　天気予報のお菓子？

鈴木　何言ってんの。奈良時代に遣唐使が日本へ持ち込んだ唐菓子の一種よ。

佐藤　どんなお菓子でふか？

鈴木　「清め」の意味を持つ七種類のお香をこしあんに練り込んで、米粉、小麦粉で作った生地を「金袋型」に包み、純正の胡麻油で20分揚げて作ったお菓子よ。

佐藤　巾着みたいな形？

鈴木　唐菓子は「からくだもの」と呼ばれ、仏教とともに我が国へ伝わったの。天台宗や真言宗などの密教のお供え物だから、当時はとても一般庶民が口にすることはできなかったのよ。

佐藤　へー。

鈴木　千年前の奈良時代のお菓子の形をそのまま伝えているところがすごくって、前にＮＨＫの大河ドラマ『平清盛』で、清盛のお父さんの平忠盛が唐菓子を食べる場面があったんだけど、見た瞬間、日本中で「あっ、清浄歓喜団食べてる！」って叫んだと思うわ。

佐藤　どこで売ってるんですか？

鈴木　亀屋清永は祇園が本店ね。でも、京都のデパ地下でも買えるから大丈夫。

佐藤　で、本の紹介の方は？

鈴木　くたびれた時にはぴったりの本よ。季節に敏感になって、人生が豊かになるわ。

佐藤　たったそれだけぇ？　じゃあ、私、八右エ門に寄ってから帰りまーす。

＊山形県以外の読者のために注をつけると、腰掛庵は天童市の和菓子店。特に夏のふわふわかき氷は全国的に有名で、賞味するには長蛇の列に並ぶことを覚悟しなければならない。八右エ門は山形市七浦の和菓子店。看板のいちご大福は一月にならないと始まらないため（臨時駐車場ができる）、佐藤さんはラフランス大福を買って帰った可能性が高い。二人が常備しているのは山形市小姓町にある戸田屋正道のティラミス大福。板東八十助の頃からずっと三津五郎のファンだった鈴木さんは、この大福を食べる度に大和屋のいなせな姿を思い出しては涙を流している。

『マルセロ・イン・ザ・リアルワールド』
フランシスコ・X・ストーク　千葉茂樹訳　岩波書店　　２０１３・１２・１３

マルセロ・サンドバルは発達障害をもつ17歳。「リアルな世界」を経験してほしいという父親の望みに応え、ひと夏を彼の法律事務所で働くことにする。新しい出会いや仕事に戸惑いながらも試練の毎日を乗りこえていくが、一枚の写真から事務所の秘密を知ってしまい、決断の時を迎える。だれもが経験する不安や成長を発達障害を持つ少年の内面から描く、さわやかな青春小説。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　アスペルガー症候群に近い発達障害を持った男の子の話がありましたよね。

鈴木　『マルセロ・イン・ザ・リアルワールド』のこと？

佐藤　ええ、アメリカの出版業界誌パブリッシャーズ・ウィークリーの2009年度ベスト・ヤング・アダルト小説です。

鈴木　主人公は人とコミュニケーションを取るのが苦手で、社会的関係を築くのが困難な17歳の少年ね。彼が強いこだわりを持ってたのは、確か「宗教」だったかしら？

佐藤　ええ。会話の途中ですぐに聖書から引用する癖がありますし、愛犬の名はナム（南無阿弥

陀仏の南無？）という徹底ぶりです。

鈴木　通(かよ)ってたのは特別支援学校ね。

佐藤　でも私たちがイメージする特別支援学校とは違って、私立の裕福な学校です。

鈴木　お父さんはボストンで法律事務所を経営している辣腕(らつわん)の弁護士さんですものね。

佐藤　マルセロは夏休みに学校が飼っているポニーの世話をするのをとても楽しみにしてたんです。でも早く「普通」の世界に慣れさせたいお父さんが、彼に自分の事務所でアルバイトをさせようとするところから話が動き出します。

鈴木　高校生活最後の一年を自分の学校で過ごすことができるのか、それとも公立高校に転校することになるのか、その結果次第というわけね。

佐藤　配属されたのはメールボックス係。担当のジャスミンの指導の下で事務所の弁護士たちに郵便物を届けたり、コピーした資料を裁判所に届けたりしなくてはなりません。

鈴木　一度に複数の情報を処理することが苦手で、地図があっても迷ってしまうことの多いマルセロにとっては大変ね。

佐藤　その上、お父さんのライバル弁護士の息子がマルセロにナンパの手伝いをさせようとしたりするので話は複雑になっていきます。

鈴木　その息子はハーバードの学生なんだけど、人格的に問題の多い坊やだったわね。

佐藤　自分が優秀だと思うと、それ以外の人を自然に見下しながら生きてしまうんです。

鈴木　ありがちね。

佐藤　実はそのことはみんなに見抜かれてるのに、自分ではなかなか気づくことができないという、とても痛いパターンです。

鈴木　マルセロの視点に立つと、人生の何気ないひとこまに隠された真実がむき出しにされるような、新鮮な驚きを持って読み進めることができるのが楽しいわ。

佐藤　それって昔は大人の世界を見る子どもの視点でしたよね。

鈴木　今の子どもたちはその機能を失ってしまったのかもしれないわね。悲しいけど。

佐藤　マルセロは仕事中にみつけた一枚の写真に強く引きつけられ、その写真の裏に潜む秘密を探り当てようと動き出します。このあたりはとてもミステリーっぽい展開です。

鈴木　悩んだマルセロはジャスミンと一緒に彼女の故郷ヴァーモント州（アメリカ合衆国の北東部に位置し、西部をニューヨーク州、東部をニューハンプシャー州、南部をマサチューセッツ州、北部をカナダのケベック州に隣接する州）の大自然の懐（ふところ）へ向かうのね。

佐藤　ここはこの小説でいちばん美しいページだと思うんですが、まわりの人たちも楽しくて、特に認知症がかったジャスミンのお父さんは傑作です。

鈴木　「風呂なら先月入ったぞ」！

佐藤　それに彼女の幼なじみが見せるしばしば不適切な言動。

鈴木　とても口では言えないわ。これってヤング・アダルト小説よね、あんなにきわどくて大丈夫なの？　アメリカでは普通なのかしら。

佐藤　それらがまるで大人のおとぎ話のようでとても愉快です。ただ、りんごと蜂蜜が出てこな

いのだけがちょっぴり残念でしたけど。

鈴木　つらい決断を乗り越えて、みんなに支えられながら「普通」の世界に向かっていくマルセロの姿には思わず胸が熱くなっちゃうわ。

佐藤　私も頑張らなくっちゃ！　読み終わった人はみんなそう思うと思います。

『最新脳科学が教える高校生の勉強法』池谷裕二（いけがや）　東進ブックス　２０１４・１・１７

高校になると勉強内容が急に難しくなり、ついていけなくなったと悩んでいる高校生は多いに違いない。だが、勉強方法を変えることでそんな悩みは解消できると説（と）いているのが本書である。高校生の年頃は脳の性質の転換期に相当し、記憶のパターンや種類が変化して、丸暗記よりも論理だった記憶能力が発達する。だからそれに合った勉強法があるというのだ。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

佐藤　鈴木さん、最近固有名詞が出てこなくなりましたよね。

鈴木　（ぎくっ）

佐藤　いつも「あれあれ」とか言ってるじゃないですか。

鈴木　（！）

佐藤　この『最新脳科学が教える高校生の勉強法』は、東京大学の池谷裕二大学院薬学系研究科教授がまだ助手の頃に書いた本なんですが、鈴木さんにも十分当てはまる本だと思うので、読んでみたらどうですか？

鈴木　（涙）

佐藤　まず、記憶に三種類あるのは知ってますよね。

鈴木　……経験記憶、知識記憶、方法記憶。

佐藤　「知識記憶」をいかに「経験記憶」に変えていくかが勝負なんです。

鈴木　どういうことでしょう？

佐藤　テスト中、あっ、これは教科書のあそこにあったなんて思い出したことありません？

鈴木　ございました。

佐藤　単純な知識でも何か他の物事と関連づけて覚えれば経験記憶に近づきます。

鈴木　英単語ではどうでしょう？

佐藤　ただ丸暗記するのではなく、例文や用法と一緒に覚えていくと定着もよくなります。

鈴木　関連するものは、多ければ多いほどいいんでしょうか？

佐藤　ええ。「連合」から「精緻化」に進みますから。このあたりは本を読んで下さい。

鈴木　数学の場合はどうでしょう？

佐藤　池谷先生は「九九」は三つくらいしか言えないそうです。

鈴木　そ、それでどうして東大理Ｉにうかったんですか！　薬学部に進学する時も大学院に合格した時も一番だったそうじゃないですか！

佐藤　その秘密は三番目の「方法記憶」にあります。池谷先生は「九九」を覚える代わりに「九九を計算する方法」を習得していたので大丈夫だったんです。

鈴木　九九を計算する方法？

佐藤　例えば「６×８」は？

鈴木　ろくはしじゅうはち。

佐藤　ですよね。でも池谷先生は九九を知らないので、数字を「十倍すること」「倍にすること」「半分にすること」という3つの方法だけを使って解いていきます。

鈴木　「10を掛けること」「２を掛けること」「２で割ること」ですね。

佐藤　まったく違います。

鈴木　ひぇー。

佐藤　池谷先生の頭の中ではこうなります。

$6 \times 8 = 6 \times (10 - 2) = 6 \times 10 - 6 \times 2 = 60 - 12 = 48$

鈴木　十倍すること、倍にすること、半分にすること……。彼、東京中央銀行出身なの？

佐藤　まじめにやって下さい！

鈴木　「23×16」も暗算できるんでしょうか？

佐藤　$23 \times 16 = 23 \times (10 + 6) = 23 \times (10 + 10 \div 2 + 1) = 23 \times 10 + 23 \times 10 \div 2 + 23 = 230 + 115 + 23 = 368$

鈴木　池谷先生はインド生まれなのね。

佐藤　もう！　知識記憶は覚えたその範囲にしか役に立ちませんが、方法記憶を使えば、その理論を根底とするすべての物事に応用できます。

鈴木　何かの話と似ているような……。その人、公式はどうしてたの？

佐藤　池谷先生は数学や理科の公式はほとんど覚えていなかったそうです。

鈴木　やっぱり！

佐藤　公式はテスト中に導いたって言ってました。公式そのものよりも公式の導き方（方法記憶）を覚えた方が「その公式を応用する力＝問題を解く力」がつくって。

鈴木　池谷先生の解き方、西高の校長先生が言ったという「公式が自分で導けるようになってから数学が分かるようになった」という話、「テストの花道」、みんなおんなじね。法則は一つなんだわ。

佐藤　後は信じてやるだけです。Hope is a Wish for Something to Come True by Action！

『ソーネチカ』　リュドミラ・ウリツカヤ　沼野恭子訳　新潮社　　２０１４・２・７

本の虫で容貌のぱっとしないソーネチカは、１９３０年代にフランスから帰国した反体制的な芸術家ロベルトに見初(そ)められ結婚する。当局の監視の下で流(る)刑地を移動しながら、貧しくも幸せな生活を送る夫婦。一人娘が大きくなり、ヤーシャという美少女と友達になって家に連れてくる。やがて最愛の夫の秘密を知ったソーネチカは……。神の恩寵(おんちょう)に包まれた女性の静謐(ひつ)な一生。幸福な感動を残す愛の物語。

＊「ＢＯＯＫ」データベースを参考に作成

鈴木　ソチ・オリンピックにちなんで、ロシアの現代小説なんかいいいんじゃない？

佐藤　加藤丈治選手、ウィリアムソン師円くん、それにパラリンピックの太田渉子さん。みんな頑張ってほしいですね。

鈴木　師円くんは、あんなに遠征してるのに、成績はいつも学年で上位にいるそうよ。

佐藤　そういう人っているんですよねえ。

鈴木　でも英語はあまり話せないんだって。

佐藤　えーっ、意外。

鈴木　あの容貌だから、選手村では外国人選手から話しかけられるんじゃないかって、心配してるみたいだわ。

佐藤　なんかいいですね。ふふ。

鈴木　さて、どの本にしましょうか。

佐藤　女性誌「ミセス」は二月号でロシアの女性作家リュドミラ・ウリツカヤを取り上げていましたね。

鈴木　『**通訳ダニエル・シュタイン**』を書いた人ね。

佐藤　あの本の主人公は、ユダヤ人なのにその秘密を隠しながらナチス（よりによってゲシュタポ）の通訳をしていたという実在の人物を扱ったお話です。他のユダヤ人たちを脱走させた後は、何とカトリック神父となってイスラエルに渡り、その地で困っている人たちの力になるという感動作。

佐藤　アラブ人でカトリックという人たちの苦悩も書いてありましたが、ユダヤ人だったらユダヤ教を信じてるはずだとか、アラブ人だったらイスラム教徒のはずだとか、何事も一面的に見てはいけませんね。

鈴木　でも『**通訳ダニエル・シュタイン**』は上下巻の大作だし、コラージュ的手法に慣れていない人もいるでしょうから、女子高生たちには『**ソーネチカ**』がいいんじゃない？

佐藤　私もそう思います。中編小説だし、二時間もあれば読み通せますから。

鈴木　西高図書館に入っている本は何刷り？

佐藤　九刷だそうです。（「きゅうすり」と読みます）

鈴木　すごいロングセラーね。

佐藤　翻訳の一般小説は、よほどのベストセラーでもない限り増刷はかかりませんから、九回も増刷しているということは、いかに日本人から愛された作品か分かります。

鈴木　立場の弱い人や少数派の人たちに寄り添って書くウリツカヤという作家は、特に女性たちからの支持が圧倒的だと思うわ。

佐藤　最初に外国から火がついたんですものね。

鈴木　自分たちの足下（もと）にあるよさというものは、なかなか気づけないものなのよ。

佐藤　村上春樹の盟友でもある柴田元幸東京大学教授の推薦文もすごいですね。

鈴木　「人間を祝福する上で、これ以上正しいやり方があるだろうか」。

佐藤　そして裏表紙の方には「この小説の主人公は不思議な人である。見るからに幸せそうなときに『なんて幸せそうなんだろう』と考えるのはともかく、親しい人に裏切られ、失望させられて、たいていの人間なら激怒し絶望しそうなときでも、何か悦ぶべきことを見つけて、やはり『なんて幸せなんだろう』と考えている」。

鈴木　すばらしいわね。

佐藤　これって「喜びのゲーム」なんですか？

鈴木　ベクトルは似てるかもね。

佐藤　アメリカの小説とロシアの小説の違い？

鈴木　っていうより、子ども向け小説と大人向け小説の違いでしょう。

佐藤　なるほど。西高の生徒たち、この複雑さを味わえるかなあ。

鈴木　大丈夫。人生は必ずしも青春ドラマのようにはいかないんだし、生徒たちもその複雑さや苦(にが)みも十分体験してると思うわよ。

佐藤　そういえば、昨年西高で講演して下さった苅谷剛(たけ)彦オックスフォード大学教授も、若い頃に書いた『**知的複眼思考法**』（講談社＋α文庫）の中で「にもかかわらず」の重要性を説いていましたね。

鈴木　にもかかわらず……。人生の味わいはそこにこそあるんだもの。

終わりに

思い込みや勘違い等による本文の間違いはすべて筆者に帰します。あらかじめお詫(わ)び申し上げます。何しろ三歩歩(あるけば、なぜ歩き出したか既に忘れているという状態が常態になっているため、いろいろ不備があるのではないかと危惧しております。誠にすみません。

「あらすじ」の作成に当たっては「BOOK」データベースを参考にさせていただきました。その際、中学生が読む場合も想定し、適宜漢字にルビを振ったり一部を省略したりして改変を加え、補足を書き足した場合があることを申し添えます。ここに記して謝意を表します。

今回も多くの人に感謝申し上げなければなりませんが、とりわけ「西高ヴァージョン」の連載を許して下さった山形西高図書館のみなさん、県の副読本に採用するという「暴挙」に挑んだ西村ひとみ先生を中心とする中学校関係者の皆さん、このような企てを奇貨(きか)とし、今回も懇切丁寧に指導・支援して下さった書肆犀(しょしさい)の岩井哲(さとし)さんに心からお礼を申し上げます。

なおこの本は著作権フリーです。営利目的以外であれば印刷等いくらしていただいてもかまいません。岩井さんは、製本して販売でもされたら、それこそ本望ではないかなどという「迷言」を吐いております。ま、ま、それはそうですが、一応こう書いておかないと……。

この度もあまり真面目とはいえない本を最後までお読みいただきありがとうございました。

阿部和久（あべかずひさ）略歴

1953年山形県河北町生まれ。
東北大学文学部卒／専攻はフランス文学。
県立高校教員、県教育次長、県立山形西高等学校長を経て、2014年3月定年退職。
同年5月から翌年2月までパリに語学留学。
エッセイ集『パリの街角から』を2016年1月書肆犀から出版。
翻訳小説の読書案内『二人のティータイム　ブック・ヴァージョン』を2016年12月
アマゾンのキンドル・ダイレクト・パブリッシングから出版。
現在も家事手伝い。

二人のティータイム
西高ヴァージョン

発行／2016.12.28　初版
著者／阿部和久
発行／書肆犀